

平成27年度
せたな町農業センター

試験成績書

〒049-4754

北海道久遠郡せたな町北檜山区二俣 55-1

電話 (0137) 85-1276

FAX (0137) 85-1277

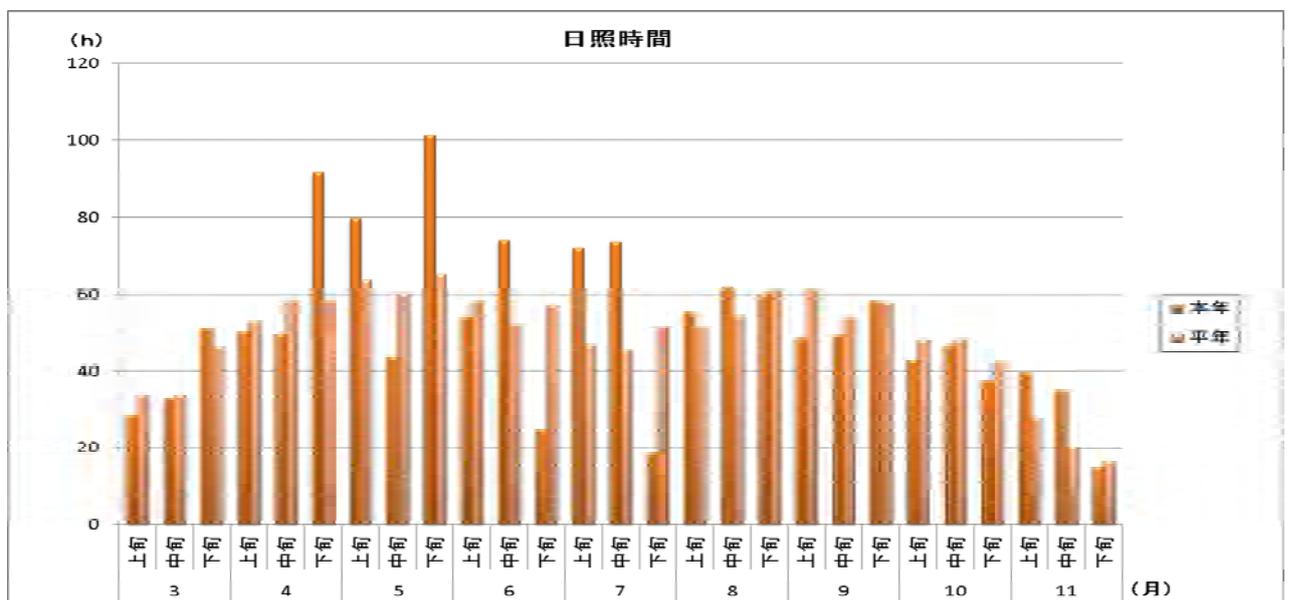
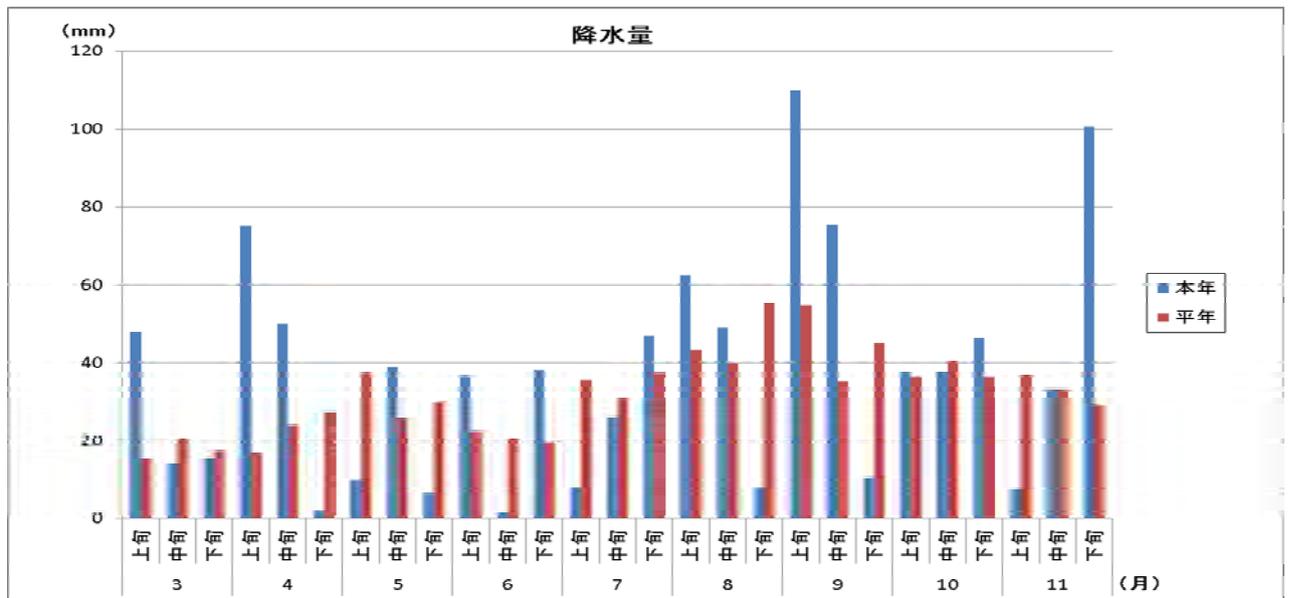
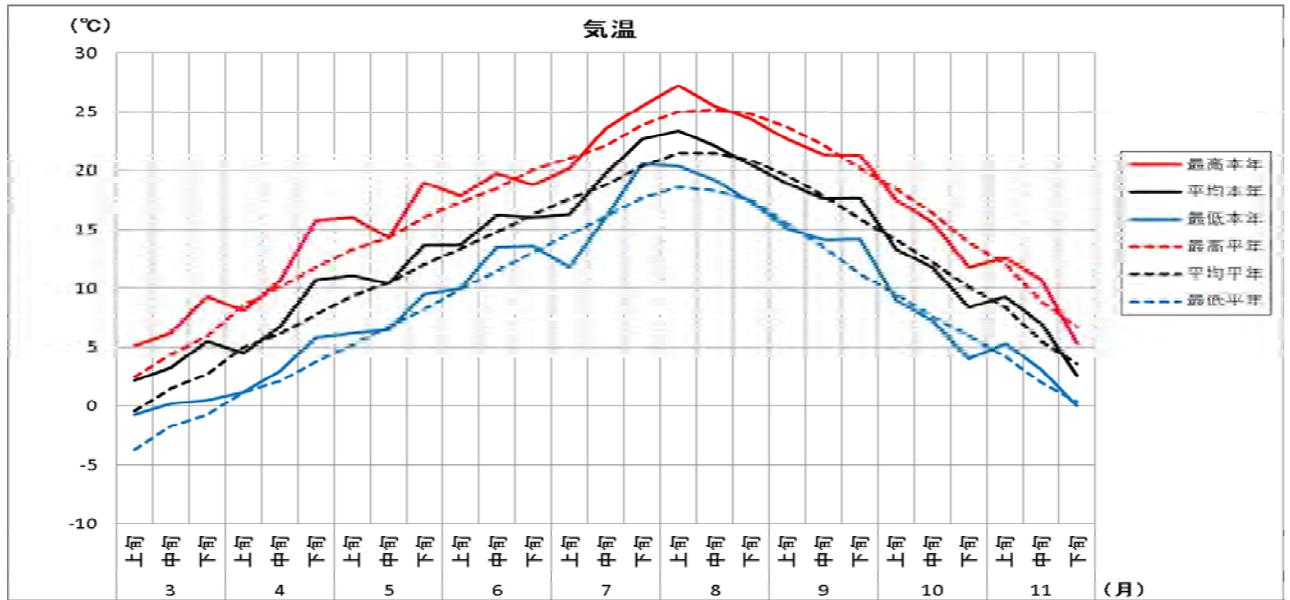
ホームページ <http://www.town.setana.lg.jp/>

目 次

平成 2 7 年 度 の 気 象 経 過	1
施 設 野 菜	
1 . ホ ウ レ ン ソ ウ 品 種 比 較 試 験 (I ~ I I)	2
2 . ホ ウ レ ン ソ ウ に 対 す る ニ ー ム 資 材 効 果 確 認 試 験	8
3 . ス イ ー ト コ ー ン (ホ ワ イ ト 系) 抑 制 栽 培 試 験	11
露 地 野 菜	
4 . ブ ロ ッ コ リ ー 品 種 比 較 試 験 (I ~ I V)	14
5 . ブ ロ ッ コ リ ー 根 こ ぶ 病 薬 剤 効 果 確 認 試 験	33
6 . ブ ロ ッ コ リ ー 新 規 殺 虫 剤 効 果 確 認 試 験	35
7 . ブ ロ ッ コ リ ー 育 苗 培 土 試 験	37
8 . 長 ネ ギ 品 種 比 較 試 験	41
9 . か ぼ ち ゃ 省 力 栽 培 方 法 試 験	45
1 0 . な す 品 種 比 較 試 験	49
畑 作	
1 1 . 秋 ま き 小 麦 に お け る 除 草 剤 効 果 ・ 薬 害 確 認 試 験	53
1 2 . 春 ま き 小 麦 に お け る 除 草 剤 効 果 ・ 薬 害 確 認 試 験	55
1 3 . 春 ま き 小 麦 緑 肥 同 伴 栽 培 試 験	57
1 4 . 大 豆 に 対 す る 密 植 効 果 確 認 試 験	59
そ の 他	
1 5 . 常 設 圃 場 お よ び 実 証 展 示 圃 の 設 置	62

平成27年度気象経過

(せたなアメダスデータより)



ハウレンソウ品種比較試験－I 【継続】

1. 試験目的 ベと病抵抗性を有するハウレンソウの品種比較
2. 試験機関 せたな町農業センター
3. 試験場所 ビニールハウス④ (6.3m×20m)
4. 試験規模 供試面積 32 m² 1区面積 4 m² 反復 2
5. 供試品種 「ブライトン」「サンホープセブン」「ネオサイクロン」「ゴーゴーサマー7」
6. 耕種概要

播種日	肥料銘柄 (kg/10a)	施肥量(kg/10a)			栽植密度	備考
		N	P	K		
4月24日	NS604 56kg	9.0	5.6	7.8	10×20cm 5,000株/10a	

7. 試験結果および考察

ブライトン

発芽は良好であった。収穫時の平均草丈は他品種に比べ大きかったが、葉数が少なく一本重に劣り収量性が最も低かった。

サンホープセブン

発芽および初期成育は良好であった。葉数多く一株重大きいため収量性に優れるが、立性で葉の厚さが薄いためボリューム感に欠けた。供試品種中最も色が淡かった。生育はブライトンとほぼ同等であった。

ネオサイクロン

発芽は良好であった。葉数が多かったが、株張りが弱くボリューム感に欠けた。生育はブライトンよりやや遅かった。

ゴーゴーサマー7

発芽がやや悪かった。葉数が少なかったが、株張りよく一本重が大きく収量性に優れた。葉色はブライトンと同程度であった。生育はブライトンよりやや遅かった。

8. 成果の具体的データ

表 1) 生育調査

番号	品種名	出芽			抽だい 発生期	収穫 調査日	生育 日数	生育 速度	収穫期における障害の種類		収穫期における			備考 中心と なった規 格
		播種日	発芽調査	発芽率					および発生程度		葉数 (枚)	草丈 (cm)	葉柄長 (cm)	
		(月日)	(月日)	(%)	(月日)	(月日)	(日)	抽だい	萎凋病					
標準	ブライトン	4月24日	5月11日	85.0	—	6月5日	42	中	なし	僅	9.7	25.1	10.7	L-M
1	サンホープセブン	4月24日	5月11日	93.3	—	6月5日	42	中	なし	僅	14.1	24.9	12.0	L-M
2	ネオサイクロン	4月24日	5月11日	87.5	—	6月5日	42	やや遅	なし	少	11.6	22.5	9.8	M
3	ゴーゴーサマー7	4月24日	5月11日	78.3	—	6月5日	42	やや遅	なし	少	9.2	23.4	10.1	M

表 2) 収量調査

番号	品種名	総収量 (kg/a)	規格内 収量 (kg/a)	株数割合		収穫時 欠株率 (%)	備考
				規格内	規格外		
				(%)	(%)		
標準	ブライトン	156	156	100	0	3.5	収量・株数割合は 調査用として抽出 した株のみで算定
1	サンホープセブン	183	183	100	0	4.5	
2	ネオサイクロン	160	160	100	0	8.0	
3	ゴーゴーサマー7	179	179	100	0	6.5	

表 3) 特性調査

番号	品種名	平均	草姿	葉色	縮み	欠刻	厚み	品質
		一株重						
		(g)	(葉色値)	(指数)	(指数)	(指数)	(指数)	
標準	ブライトン	31.2	中	63.5	3	3	3	3
1	サンホープセブン	36.6	立	49.8	4	4	2	3
2	ネオサイクロン	32.0	中	59.5	3	3	3	3
3	ゴーゴーサマー7	35.8	中	62.7	3	3	4	4

草姿・葉姿(対ブライトン)

縮み 多1-少5

欠刻 浅1-深5

厚み 薄1-厚5

品質 悪1-良5



ブライトン



サンホープセブン



ネオサイクロン



ゴーゴーサマー7

ホウレンソウ品種比較試験Ⅱ 【継続】

1. 試験目的 ホウレンソウ夏期栽培の優良品種比較
2. 試験機関 せたな町農業センター
3. 試験場所 ビニールハウス④ (6.3m×20m)
4. 試験規模 供試面積 32 m² 1区面積 4 m² 反復 2
5. 供試品種 「カイト」「サンホープセブン」「ネオサイクロン」「ゴーゴーサマー7」
6. 耕種概要

播種日	肥料銘柄 (kg/10a)	施肥量(kg/10a)			栽植密度	備考
		N	P	K		
7月15日	NS604 56kg	9.0	5.6	7.8	10×20cm 5,000株/10a	

7. 試験結果および考察

カイト

発芽は良好であったが収穫到達日数が最も長かった。収穫時の平均草丈が他品種に比べ小さかったが、葉の厚さが厚く株張りが良くボリューム感に優れ、葉色が濃かった。一本重が大きく収量性が最も高かった。

サンホープセブン

発芽および初期成育は良好であった。葉数は多かったが、葉の厚さが薄く株張りも弱いため一株重が小さく収量性に劣った。供試品種中最も色が淡かった。

ネオサイクロン

発芽および初期成育は良好であった。生育が最も早く株張りが良くボリューム感に優れた。萎凋病の発生が多く見られた。葉色が薄かった。

ゴーゴーサマー7

発芽が悪く初期生育が若干遅かったが、収穫到達日はカイトに比べやや早となった。品質に優れ、株張り良く一本重が大きく収量性が高かった。葉色はやや薄めであった。

8. 成果の具体的データ

表1) 生育調査

番号	品種名	出芽			抽だい 発生期 (月日)	収穫 調査日 (月日)	生育 日数 (日)	生育 速度	収穫期における障害の種類		収穫期における			備考 中心と なった規 格
		播種日 (月日)	発芽調査 (月日)	発芽率 (%)					および発生程度	葉数 (枚)	草丈 (cm)	葉柄長 (cm)		
標準	カイト	7月15日	7月23日	89.7	—	8月20日	36	中	なし	中	11.8	25.2	11.3	L-M
1	サンホープセブン	7月15日	7月23日	92.2	—	8月17日	33	早	なし	中	13.9	29.2	12.7	L
2	ネオサイクロン	7月15日	7月23日	87.8	—	8月17日	33	早	なし	やや多	10.2	30.3	13.6	2L-L
3	ゴーゴーサマー7	7月15日	7月23日	73.1	—	8月17日	33	やや早	なし	中	10.6	27.5	10.9	L

表2) 収量調査

番号	品種名	総収量 (kg/a)	規格内 収量 (kg/a)	株数割合		収穫時 欠株率 (%)	備考
				規格内 (%)	規格外 (%)		
標準	カイト	234	234	100	0	26.9	収量・株数割合は調査 用として抽出した株の みで算定
1	サンホープセブン	156	156	100	0	20.3	
2	ネオサイクロン	219	203	93	7	30.1	欠株率は作付した全 株を対象として算定
3	ゴーゴーサマー7	219	219	100	0	23.3	規格外は3L

表3) 特性調査

番号	品種名	平均	草姿	葉色 (葉色値)	縮み (指数)	欠刻 (指数)	厚み (指数)	品質 (指数)
		一株重 (g)						
標準	カイト	46.9	中	57.0	3	3	3	3
1	サンホープセブン	31.1	立	44.1	3	4	1	2
2	ネオサイクロン	43.8	中～展	45.2	3	3	2	3
3	ゴーゴーサマー7	43.8	立～中	49.4	3	3	3	3

草姿・葉姿(対ブライトン)

縮み 多1-少5

欠刻 浅1-深5

厚み 薄1-厚5

品質 悪1-良5

【画像資料】 6月5日



カイト



サンホープセブン



ネオサイクロン



ゴーゴーサマー7

ハウレンソウに対するニーム資材効果確認試験 【継続】

1. 試験目的 ニーム資材のハウレンソウへの効果を確認する
2. 試験機関 檜山農業改良普及センター檜山北部支所
3. 試験場所 ビニールハウス④
4. 供試品種 「ブライトン」「サンホープセブン」「ネオサイクロン」
「ゴーゴーサマーセブン」「カイト」(品種比較試験区を反復の一部とした)
5. 試験区分

区 分		内 容
試験Ⅰ 4/24 は種	試験区①	「AZカーネルケーキ」 15kg/100坪 土壌表面散布
	試験区②	「ダイコーニームルケーキ」 15kg/100坪 土壌表面散布
	慣行区	無散布
試験Ⅱ 7/15 は種	試験区①	「AZカーネルケーキ」 15kg/100坪 土壌表面散布 (通常かん水)
	試験区②	「AZカーネルケーキ」 15kg/100坪 土壌表面散布 (多かん水)
	慣行区	無散布 (通常かん水)

6. 試験規模

- (1) 供試面積：48m² 1区面積 4m²×12区
- (2) 区 制：試験Ⅰ 試験区① 4反復 試験区② 2反復 無処理区 6反復
(併設した品種比較試験での条件を揃えるため反復数は処理毎に異なる。)
試験Ⅱ 3区4反復

7. 耕種概要

区分	は種日	ニーム 処理日	収穫日 (生育日数)	栽植密度 (3粒播き1本立て)	基 肥
試験Ⅰ	4/24	5/1 (7日目)	6/5 (42日)	株間10cm 条間20cm (5,000株/10a)	NS604 56kg/10a (N:P:K=8.96:5.6:7.84)
試験Ⅱ	7/15	7/17 (6日目)	8/17, 20 (33日、36日)	株間10cm 条間20cm (5,000株/10a)	NS604 60kg/10a (N:P:K=8.96:5.6:7.84)

* ニーム資材の土壌表面散布処理は、発芽揃い期に行った。

区分	薬剤防除日	は種後日数	薬剤名	倍率
試験Ⅰ	5/9	15日	コテツフロアブル	4,000倍
	5/20	26日	カスケード乳剤	4,000倍
試験Ⅱ	7/29	14日	コテツフロアブル	4,000倍
	8/12	28日	カスケード乳剤	4,000倍

試験区毎のかん水量 (ℓ/m²)

試験 I	かん水日	5/19	5/17						
	全区	0.7	0.5						
試験 II	かん水日	7/28	7/30	8/3	8/5	8/7	8/10	8/13	8/16
	通常かん水区	—	2	4	9	—	9	9	—
	多かん水区	2.5	2	4	9	2.5	9	9	2.5

8. 結果の概要

- ・ハウレンソウケナガコナダニに対して、ニーム資材の忌避作用を利用した総合防除が区内の一部に導入されているが、資材の供給停止に伴い代替資材の検討を行った。

(1) 生育経過

ア 試験 I、II とも、生育は順調で、「処理区」「無処理区」ともに、ハウレンソウケナガコナダニの被害が少なく、ハウスの外周に近い部分のごく一部で軽微な食害痕がみられたものの、作物への被害はほとんどなかった。

イ 生育期間中、一週間おきにコナダニ見張り番を設置し、翌日、捕獲されるハウレンソウケナガコナダニの数を調査した（表 1）。

(2) 防除効果

ア 試験 I、II とも「処理区」「無処理区」ともに、収穫時の調査株にはハウレンソウケナガコナダニの被害は無く、区による被害程度の差は判然としなかった。

イ 試験 I では、処理前（5/1）の捕獲数は「無処理区」より「処理区①②」の平均捕獲数が上回っていたが、処理後はすべての調査において、「試験区①」「試験区②」ともに捕獲数が少なかった。また、約2週間は捕獲数は0であり、ニーム資材処理区では、資材の種類にかかわらず、全く捕獲されなかった（表 1）

ウ 試験 II では、ハウレンソウケナガコナダニは乾燥で被害が増えることから、かん水を増やして被害が低下するかどうかを参考まで調査した。多かん水区の捕獲数は、やや少ない傾向があったが、今回の調査のみでは結果は判然としなかった。

9. 結果の考察

(1) 試験 I では、今回供試したニーム資材「AZカーネルケーキ」「ダイコーニームケーキ」の2資材はともに、無散布と比べて、誘因トラップへの捕獲数が減ったことから、2資材はともに、作物への寄生を減らす効果があると考えられる。

(2) 試験 II では、資材を「AZカーネルケーキ」に絞って試験したが、試験 I と同様の結果で作物への寄生を減らす効果があると考えられる。

(3) 試験 II では、多かん水区については、品種比較試験との併置試験であったため、設置条件が不十分であったこともあり、ニーム資材に加えて多かん水で効果が増えるのか。また、成分の分解が早まるため、効果が早く低下するのかかどうか。などについては判然としなかった。

10. まとめ（普及性）

今回の試験では、発生密度が低いため、被害軽減効果までは確認できなかったが、供試した「AZカーネルケーキ」および「ダイコーニームケーキ」については、どちらも捕獲数が減少することから、作物への寄生を減らす効果はあると考える。

1 1. 成果の具体的データ

表1 コナダニ見張番によるハウレンソウケナガコナダニ捕獲頭数（1区2カ所調査平均）

	調査日	処理前					
		5/1	5/8	5/15	5/22	5/29	
試験 I	処理区①「AZカーネルケーキ」平均	1.37	0.00	0.00	0.12	0.12	
	処理区②「ダイコーニーム」区平均	1.00	0.00	0.00	0.00	0.25	
	無処理区平均	0.17	0.67	0.08	1.50	1.75	
試験 II	調査日	7/16	7/23	7/29	8/5	8/12	8/19
	試験区①「AZカーネルケーキ」慣行かん水区	10.6	1.80	0.80	0.5	0.50	0.30
	試験区②「AZカーネルケーキ」多かん水区	10.3	0.63	0.38	0.00	0.50	0.50
	無処理区平均	2.00	11.3	6.50	1.30	0.50	0.00

スイートコーン（ホワイト系）抑制栽培試験 【新規】

1. 試験目的 ハウス抑制栽培での優良品種を検討する。
2. 試験機関 せたな町農業センター
3. 試験場所 ビニールハウス②（無加温）
4. 試験規模 供試面積 260 m² 1区面積 10.8 m² 反復 2
5. 供試品種 「ピュアホワイト」「ホワイトレディ」「雪味甘ちゃん」「雪の妖精」
「ロイシーコーン」「プラチナコーン χ 」
6. 耕種概要

播種日	肥料銘柄 (kg/a)	施肥量(kg/a)			栽植密度
		N	P	K	
7月27日	IBS482 18kg	2.5	3.2	2.1	45cm×30cm

7. 結果および考察

ピュアホワイト

発芽率、発芽揃いに優れなかった。稈長は中程度であったが着穂高は大きかった。穂重及び穂長が小さい収量性に劣り、規格内率も低かった。粒の揃いが悪く外観品質があまり優れなかった。供試品種中糖度が最も高かった。

ホワイトレディ

発芽率、発芽揃いが非常に良好であり、初期生育旺盛であった。稈長が大きかったが着穂高は中程度であった。穂重が大きかったがややばらつきが見られ、規格内率が低めとなった。

雪味甘ちゃん

発芽率、発芽揃いが良好であった。稈長、着穂高は小さかった。穂長がやや小さいものの穂重が大きく2L・L率が高く収量性が最も優れた。先端不稔が少なく外観品質にも優れたが、糖度が低かった。

雪の妖精

発芽率、発芽揃いが良好であった。稈長、着穂高は中程度であった。穂長及び穂重が大きく収量性に優れた。先端不稔が多めであった。

ロイシーコーン

発芽率、発芽揃いが非常に良好であった。稈長は大きく、着穂高は中程度であった。穂長および穂重が大きく、L率が高かった。糖度が高かった。

プラチナコーン χ

発芽率は良いが、発芽揃いがやや悪かった。稈長、着穂高は中程度であった。穂長及び穂重は大きかったがM規格が中心となった。外観品質については先端不稔が多めであったが、粒ぞろいが良かった。糖度が高かった。

8. 試験成果の具体的データ

1) 発芽調査

調査日	品種名	発芽期	発芽揃	発芽率
8月5日			悪1-3-5良	(%)
No.1	ピュアホワイト	8月1日	2	78.8
No.2	ホワイトレディ	7月31日	5	95.0
No.3	雪味甘ちゃん	7月31日	4	95.3
No.4	雪の妖精	7月31日	4	96.6
No.5	ロイシーコーン	7月31日	5	97.5
No.6	プラチナコーン χ	7月31日	3	94.4

2) 収穫時調査

品種名		規格内平均値								
		稈長	着穂高	穂重		穂長	穂径	不稔長	粒列数	Brix.
				皮付	皮剥					
		cm	cm	g	g	cm	cm	cm	列	
ピュアホワイト	平均	234.5	76.4	316.3	247.8	18.7	5.0	0.6	19.0	18.7
ホワイトレディ	平均	240.3	53.4	376.8	276.4	20.2	5.0	0.7	17.8	17.8
雪味甘ちゃん	平均	206.0	48.1	396.7	280.4	19.3	5.1	0.2	18.1	16.4
雪の妖精	平均	229.1	50.1	387.7	283.7	20.2	5.0	0.9	18.3	17.7
ロイシーコーン	平均	239.6	52.8	386.4	274.9	20.4	5.0	0.8	17.7	18.0
プラチナコーン χ	平均	234.9	51.3	371.9	275.0	20.2	5.0	0.9	17.5	18.2

3) 収量調査

品種名	収穫日 到達日数	規格別収量(kg/a)					規格外収量 (kg/a)	合計 (kg/a)	規格内率 (%)
		2L	L	M	S	計			
ピュアホワイト	85日 (10月19日)	0.0	0.0	26.3	146.4	172.7	61.6	234.3	64.3
ホワイトレディ	80日 (10月14日)	0.0	121.0	125.6	11.3	257.9	32.6	290.5	87.4
雪味甘ちゃん	80日 (10月14日)	17.0	156.4	82.5	38.0	293.9	0.0	293.9	100.0
雪の妖精	80日 (10月14日)	0.0	125.4	111.6	50.2	287.2	0.0	287.2	100.0
ロイシーコーン	80日 (10月14日)	0.0	139.0	124.0	12.7	275.7	10.6	286.3	96.2
プラチナコーン χ	82日 (10月16日)	0.0	46.1	168.2	61.1	275.4	0.0	275.4	100.0

【画像資料】



ピュアホワイト



ホワイトレディ



雪味甘ちゃん



雪の妖精



ロイシーコーン



プラチナコーンX

ブロッコリー品種比較試験－I 【継続】

1. 試験目的 優良品種の選定に資する
2. 試験機関 せたな町農業センター
3. 試験場所 試験圃場 No.予備4
4. 試験規模 供試面積 282 m² 1区面積 40.3 m² 反復 なし
5. 供試品種 ピクセル、おはよう、ジェットドーム、陽麟、玉麟、SK9-099
スピードドーム

6. 耕種概要

前作物： えん麦

播種日： 5月15日

128穴セルトレイ、スミソイル170N

定植日： 6月8日

活着の良否： 良

栽植密度： 3,472株/10a（畦幅72cm×株間40cm）

施肥量（kg/10a）： 基肥UF550 84kg

追肥 なし

7. 生育の経過

発芽率は全ての品種において良好であったが、SK9-099に生育不良株が多く、定植に使える苗の割合（成苗率）は他の品種より低かった。定植時は十分な土壌水分があり活着が良好であった。定植後は少雨傾向であったが、7月中旬から下旬にかけて高温、多湿が続き腐敗が多くの品種に発生した。

8. 調査結果および考察

標準. 「ピクセル」： しまりが比較的ゆるく、凸凹がやや目立ち、粒揃いはあまり良くなかった。リーフィーが多く発生した。中程度の茎空洞が発生した。

1. 「おはよう」： 花蕾の形状が球形に近く、ボリューム感があつた。しまりは硬かつたが、花蕾腐敗症が多く発生した。リーフィーの発生が多かつた。軽微な茎空洞が見られた。

2. 「ジェットドーム」： しまりがピクセルと同程度でややゆるかつた。腐敗、枯花が軽微に発生した。茎空洞は軽微であつた。生育が供試品種中一番早く、在圃性が短かつた。

3. 「陽麟」： しまりが非常に硬く、凸凹が小さく、粒揃い、ボリューム感にも優れ、腐敗が見られなかつた。リーフィー、茎空洞の発生が顕著であつた。軽微なアントシアンが多くの株に発生した。

4. 「玉麟」： しまり、凸凹の少なさ、粒揃いに優れ、リーフィーの発生もなく花蕾の外観品質に優れた。花蕾の形状が球形で、ボリューム感があつた。腐敗の発生が軽微であつた。茎空洞・アントシアンは発生しなかつた。

5. 「SK9-099」: しまり、凸凹の少なさ、粒揃いに優れたが、リーフィーの発生が多かった。花蕾の形状が球形で、ボリューム感があった。腐敗、枯花が軽微に発生した。茎空洞・アントシアンは発生しなかった。花蕾の着生位置が低く収穫作業にやや難がある。

6. 「スピードドーム」: ピクセルに対し凸凹の少なさがやや優れたものの、しまり、粒揃い、ボリューム感は同程度でリーフィーの発生も多く外観品質はあまり優れなかった。茎空洞は軽微であった。生育が早く、在圃性が短かった。

9. 試験成果の具体的データ

表1) 生育調査-1

番号	品種名	発芽および初期成育の良否	生育日数 (日)	花蕾径 (cm)	枝落重 (g)	各障害発生率(%)				
						花蕾腐敗症	軟腐	枯花	リーフィー	不整形
標準	ピクセル	○	51	12.3	252	8.3	0.0	0.0	50.0	0.0
1	おはよう	○	53	11.7	272	25.0	3.1	0.0	50.0	0.0
2	ジェットドーム	○	51	12.9	288	10.4	3.0	1.5	10.4	0.0
3	陽麟	○	56	13.5	279	0.0	0.0	0.0	52.2	0.0
4	玉麟	○	53	11.3	289	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0
5	SK9-099	△	52	13.5	302	1.9	1.9	1.9	41.5	1.9
6	スピードドーム	○	51	11.9	264	16.7	0.0	0.0	52.8	0.0

表2) 生育調査-2、総合評価

番号	品種名	規格内 収量	規格外 収量	花蕾特性調査							在圃 期間
		(kg/10a)		形状	しまり	凹凸	粒揃い	ボリューム感	茎空洞	アントシアン	
標準	ピクセル	802	73	やや丸	3	3	3	3	中	無	中
1	おはよう	679	266	丸	4	4	4	4	小	無	中
2	ジェットドーム	852	149	やや丸	3	4	3	3	小	無	短
3	陽麟	969	0	丸	4	4	4	4	甚大	小	中
4	玉麟	957	48	丸	4	5	4	4	無	無	中
5	SK9-099	1,029	20	丸	4	4	4	4	無	無	中
6	スピードドーム	765	153	やや丸	3	4	3	3	小	微	短

【画像資料】

(草姿)



ピクセル



おはよう



ジェットドーム



陽麟



玉麟



SK9-099



スピードドーム
スピードドーム

(茎空洞)



ピクセル
ピクセル



おはよう
おはよう



ジェットドーム
ジェットドーム



陽麟
陽麟



玉麟



SK9-099



スピードドーム

ブロッコリー品種比較試験－Ⅱ 【継続】

1. 試験目的 優良品種の選定に資する
2. 試験機関 せたな町農業センター
3. 試験場所 試験圃場 No.予備4
4. 試験規模 供試面積 282 m² 1区面積 40.3 m² 反復 なし
5. 供試品種 ピクセル、おはよう、ジェットドーム、陽麟、玉麟、SK9-099
スピードドーム

6. 耕種概要

前作物： えん麦

播種日： 6月8日

128穴セルトレイ、スミソイル170N

定植日： 6月30日

活着の良否： 良

栽植密度： 3,472株/10a（畦幅72cm×株間40cm）

施肥量（kg/10a）： 基肥UF550 84kg

追肥 なし

7. 生育の経過

発芽率は全ての品種において良好であったが、玉麟、SK9-099に生育不良株が多く、SK9-099については発芽揃いも優れなかった。定植時は十分な土壤水分で、定植後についても適度な降雨があり活着が良好であった。8月初旬、中旬に大きな降雨があり、一部の品種に腐敗が発生した。

8. 調査結果および考察

標準. 「ピクセル」： しまりが比較的ゆるく、凸凹がやや目立ち、外観品質があまり優れなかった。枯花、リーフィーが目立って発生した。程度の大きい茎空洞が多発した。

1. 「おはよう」： しまりは硬かったが、花蕾腐敗症が多く発生した。茎が太く重量感、ボリューム感に優れた。枯花が発生し、リーフィーも目立って発生した。程度の大きい茎空洞が多発した。

2. 「ジェットドーム」： 外観品質がピクセルと同程度であり優れなかった。花蕾腐敗症が軽微に発生し、枯花は多く発生した。茎空洞は中程度であった。

3. 「陽麟」： しまりが非常に硬く、腐敗、枯花の発生がなかった。リーフィーが多発し、大きい茎空洞の発生が多かった。軽微なアントシアンが多くの株に発生した。

4. 「玉麟」： しまりが非常に硬く、凸凹の少なさ、粒揃いにも優れ、リーフィーの発生が少なく花蕾の外観品質に優れた。花蕾の形状が球形で、茎が太くボリューム感があった。若干の軟腐が発生した。茎空洞・アントシアンは発生しなかった。

5. 「SK9-099」: しまり、凸凹の少なさに優れ、花蕾の外観品質に優れた。腐敗、枯花の発生がなかった。花蕾の形状が球形で、茎が太くボリューム感があつた。茎空洞が軽微に発生し、アントシアンの発生はかつた。

6. 「スピードドーム」: しまりは硬かつたが、凸凹、粒揃い、ボリューム感はピクセルと同程度で外観品質があまり優れなかつた。腐敗、枯花は見られなかつたが、リーフィーが多く発生した。茎空洞の発生は僅かであつた。

9. 試験成果の具体的データ

表1) 生育調査-1

番号	品種名	発芽および初期成育の良否	生育日数 (日)	花蕾径 (cm)	枝落重 (g)	各障害発生率(%)				
						花蕾腐敗症	軟腐	枯花	リーフィー	不整形
標準	ピクセル	○	52	11.8	271	0.0	0.0	13.3	80.0	0.0
1	おはよう	○	55	11.9	325	20.8	0.0	8.3	70.8	0.0
2	ジェットドーム	○	50	12.6	302	2.9	0.0	14.7	26.5	0.0
3	陽麟	○	62	11.3	297	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
4	玉麟	△	52	11.4	331	0.0	4.2	0.0	20.8	0.0
5	SK9-099	△	57	12.1	325	0.0	0.0	0.0	26.3	0.0
6	スピードドーム	○	51	12.0	274	0.0	0.0	0.0	65.0	0.0

表2) 生育調査-2、総合評価

番号	品種名	規格内 収量	規格外 収量	花蕾特性調査							在圃 期間
		(kg/10a)		形状	しまり	凹凸	粒揃い	ボリューム感	茎空洞	アントシア	
標準	ピクセル	816	126	ヤヤ丸	3	3	3	3	大	微	短
1	おはよう	846	282	ヤヤ丸	4	3	3	4	大	無	中
2	ジェットドーム	865	185	ヤヤ丸	3	3	3	3	中	微	短
3	陽麟	1,031	0	ヤヤ丸	5	3	3	3	大	小	長
4	玉麟	1,101	48	丸	5	4	3	4	無	無	短
5	SK9-099	1,130	0	丸	4	4	4	4	小	無	中
6	スピードドーム	951	0	ヤヤ丸	4	3	3	3	微	微	短

【画像資料】

(草姿)



ピクセル



おはよう



ジェットドーム



陽麟



玉麟



SK9-099



スピードドーム

(茎空洞)



ピクセル



おはよう



ジェットドーム



陽麟



玉麟



SK9-099



スピードドーム

ブロッコリー品種比較試験－Ⅲ 【継続】

1. 試験目的 優良品種の選定に資する
2. 試験機関 せたな町農業センター
3. 試験場所 試験圃場 No.予備4
4. 試験規模 供試面積 282 m² 1区面積 40.3 m² 反復 なし
5. 供試品種 ピクセル、おはよう、ジェットドーム、陽麟、玉麟、SK9-099
スピードドーム

6. 耕種概要

前作物： えん麦

播種日： 7月1日

128穴セルトレイ、スミソイル170N

定植日： 7月24日

活着の良否： 良

栽植密度： 3,472株/10a（畦幅72cm×株間40cm）

施肥量（kg/10a）： 基肥UF550 84kg

追肥 なし

7. 生育の経過

発芽率は全ての品種において良好であったが、玉麟、SK9-099に生育不良株が多く、SK9-099については発芽揃いも優れなかった。定植時、定植後とも適度な土壌水分で活着が良好で順調に生育したが、収穫時には多くの品種で枯花が発生し規格外の要因となった。

8. 調査結果および考察

標準. 「ピクセル」： しまりが比較的硬めであり、凸凹がやや目立った。茎が細く、花蕾の形状がやや開張しておりボリューム感に欠けた。枯花が目立って発生した。程度の大きい茎空洞が多発した。

1. 「おはよう」： しまりが硬めで、凹凸が少なかった。枯花が目立ち、軽微なリーフィーが多く株に発生した。茎空洞は軽微で発生株数も少なかった。

2. 「ジェットドーム」： しまりが硬く、凸凹の少なさ、粒揃いにも優れたが、枯花の発生が多く、リーフィーも目立った。茎空洞は中程度であった。

3. 「陽麟」： しまりが硬めで、凹凸が少なく、粒揃いにも優れたが、大きなリーフィーが多くの株に発生した。枯花の発生はなかった。茎空洞は中程度であった。

4. 「玉麟」： しまりが非常に硬く、凸凹の少なさ、ボリューム感もあり、外観品質に優れた。枯花、リーフィー、茎空洞、アントシアンの発生が全くなかった。

5. 「SK9-099」: しまりが硬めで、凹凸が少なく、粒揃いにも優れた。枯花が若干発生し、程度の小さいリーフィーが多く発生した。茎空洞が軽微に発生し、アントシアンの発生はかった。

6. 「スピードドーム」: 凸凹の少なさは優れたが、粒揃い、ボリューム感はピクセルと同程度であった。花蕾腐敗症の発生が見られた。枯花の発生が非常に多く、規格内収量減少の要因となった。茎空洞の発生は中程度であった。

9. 試験成果の具体的データ

表1) 生育調査-1

番号	品種名	発芽および初期成育の良否	生育日数 (日)	花蕾径 (cm)	枝落重 (g)	各障害発生率(%)				
						花蕾腐敗症	軟腐	枯花	リーフィー	不整形
標準	ピクセル	○	50	11.1	255	0.0	0.0	10.0	20.0	0.0
1	おはよう	○	50	11.3	299	0.0	0.0	10.0	75.0	0.0
2	ジェットドーム	○	46	11.3	262	0.0	0.0	18.2	50.0	0.0
3	陽麟	○	62	12.0	307	0.0	0.0	0.0	95.0	0.0
4	玉麟	○	49	11.2	313	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5	SK9-099	△	52	11.0	292	0.0	0.0	5.0	75.0	0.0
6	スピードドーム	○	49	11.6	288	5.0	0.0	35.0	20.0	0.0

表2) 生育調査-2、総合評価

番号	品種名	規格内 収量	規格外 収量	花蕾特性調査							在圃 期間
		(kg/10a)	形状	しまり	凹凸	粒揃い	ボリューム感	茎空洞	アントシア		
標準	ピクセル	796	88	ヤヤ丸	3	3	3	3	大	微	中
1	おはよう	935	104	ヤヤ丸	3	4	3	3	微	無	中
2	ジェットドーム	743	165	ヤヤ丸	4	4	4	3	中	微	短
3	陽麟	1,066	0	ヤヤ丸	3	4	4	3	中	微	長
4	玉麟	1,085	0	丸	4	4	4	4	無	無	短
5	SK9-099	911	101	ヤヤ丸	3	4	4	3	小	無	中
6	スピードドーム	599	400	ヤヤ丸	3	4	3	3	中	微	短

【画像資料】

(草姿)



ピクセル



おはよう



ジェットドーム



陽麟



玉麟



SK9-099



スピードドーム

スピードドーム

(茎空洞)



ピクセル

ピクセル



おはよう

おはよう



ジェットドーム

ジェットドーム



陽麟

陽麟



玉麟



SK9-099



スピードドーム

ブロッコリー品種比較試験－Ⅳ 【継続】

1. 試験目的 優良品種の選定に資する
2. 試験機関 せたな町農業センター
3. 試験場所 試験圃場 No.予備4
4. 試験規模 供試面積 282 m² 1区面積 40.3 m² 反復 なし
5. 供試品種 ピクセル、おはよう、ジェットドーム、陽麟、玉麟、SK9-099
スピードドーム

6. 耕種概要

前作物： ブロッコリー

播種日： 7月23日

128穴セルトレイ、スミソイル170N

定植日： 8月17日

活着の良否： 良

栽植密度： 3,472株/10a（畦幅72cm×株間40cm）

施肥量（kg/10a）： 基肥UF550 84kg

追肥 なし

7. 生育の経過

発芽率及び初期生育は陽麟が悪かった。ピクセル、おはよう、ジェットドーム、陽麟、玉麟に不良苗が多く見られた。定植時、定植後とも適度な土壤水分で順調に生育したが、10月上旬以降の平均気温が平年を下回り収穫までの日数が長く、陽麟については生育が滞り収穫に至らなかった。

8. 調査結果および考察

標準. 「ピクセル」： しまりが硬く、凸凹の少なさ、粒揃いにも優れたが、目立つリーフィーが多発した。茎空洞はなく、軽微なアントシアンが僅かの株に発生した。

1. 「おはよう」： しまり、粒揃いがピクセルに比べるとやや劣り、凹凸の程度は同等であった。目立つリーフィーが多発し、茎空洞、アントシアンはなかった。

2. 「ジェットドーム」： しまりが硬く、凸凹の少なさ、粒揃いにも優れた。リーフィーの発生が多く、小さい茎空洞の発生が多く見られた。

3. 「陽麟」： 定植後90日を経過しても収穫に至らず。

4. 「玉麟」： しまりが非常に硬く、凸凹の少なさ、ボリューム感もあり、外観品質に優れた。程度の小さいリーフィーが少数株に発生した。茎空洞、アントシアンの発生はなかった。

5. 「SK9-099」: しまり、粒揃いがピクセルに比べるとやや劣り、凹凸の程度は同等であった。目立つリーフィーが多発し、茎空洞、アントシアンはなかった。

6. 「スピードドーム」: しまり、粒揃いがピクセルに比べるとやや劣り、凹凸の程度は同等であった。少数株に花蕾腐敗症の発生が見られた。程度の小さいリーフィーが散見された。茎空洞はなく、軽微なアントシアンが僅かの株に発生した。

9. 試験成果の具体的データ

表1) 生育調査-1

番号	品種名	発芽および初期成育の良否	生育日数 (日)	花蕾径 (cm)	枝落重 (g)	各障害発生率(%)				
						花蕾腐敗症	軟腐	枯花	リーフィー	不整形
標準	ピクセル	△	77	11.2	319	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
1	おはよう	△	81	11.4	323	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
2	ジェットドーム	△	66	12.2	347	0.0	0.0	0.0	80.0	0.0
3	陽麟	×	—	—	—	—	—	—	—	—
4	玉麟	△	77	11.1	348	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0
5	SK9-099	○	81	11.8	327	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
6	スピードドーム	○	70	11.1	300	5.0	0.0	0.0	30.0	0.0

表2) 生育調査-2、総合評価

番号	品種名	規格内 収量	規格外 収量	花蕾特性調査							在圃 期間
		(kg/10a)		形状	しまり	凹凸	粒揃い	ボリューム感	茎空洞	アントシアン	
標準	ピクセル	1,108	0	ヤヤ丸	3	3	3	3	無	微	中
1	おはよう	1,123	0	ヤヤ丸	2	3	2	3	無	無	長
2	ジェットドーム	1,206	0	ヤヤ丸	3	4	3	3	小	無	短
3	陽麟	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
4	玉麟	1,210	0	丸	3	4	3	4	無	無	中
5	SK9-099	1,137	0	ヤヤ丸	2	3	2	3	無	無	長
6	スピードドーム	991	52	ヤヤ丸	2	3	2	3	無	微	短

【画像資料】

(草姿)



ピクセル



おはよう



ジェットドーム



玉麟



SK9-099



スピードドーム

(茎空洞)



ピクセル



おはよう



ジェットドーム



玉麟



SK9-099



スピードドーム

ブロッコリーの根こぶ病薬剤効果確認試験 【継続】

1. 試験目的 新規殺菌剤の土壌混和または灌注処理による防除効果を確認する
2. 試験機関 せたな町農業センター
3. 試験場所 試験圃場 No. 13
4. 供試作物（品種） ブロッコリー（スピードドーム）
5. 試験規模 ①供試面積： 150m² ②1区面積： 25m² ③反復： 2

6. 耕種の概要

土壌型	土性	植付日	肥料銘柄	施肥量(kg/10a)			栽植密度	備考
				N	P	K		
褐色森林	壤土	8月17日	UF550	12.6	12.6	8.4	72×40	

7. 試験方法および供試薬剤

試験区分	薬剤名	散布量	処理方法	散布時期	その他
試験区	オラクル顆粒水和剤	300g/10a	全面土壌混和	定植直前	
対照区	ネビジン粉剤	30kg/10a			
無処理区	—	—			

8. 調査項目

- (1) 調査時期 収穫期
- (2) 調査項目 各試験区10株を掘り取り根こぶの着生状況を調査し、発病株率と発病度を算出する。

【発病評価】

$$\text{発病度} = 100 \times (4A + 3B + 2C + D) / (4 \times \text{調査株})$$

- A：根こぶが主根に着生、肥大が著しい。 C：根こぶが側根に着生、肥大している。
 B：根こぶが主根に着生、肥大している。 D：根こぶが側根に着生、肥大は1cm以下。

$$\text{防除価} = 100 - (\text{処理区の発病度} / \text{無処理区の発病度}) \times 100$$

9. 調査結果および効果判定（調査日：10月 21日）

区名	発病株率	発病度	防除価	薬害	総合判定		
					対対	対無	判定
試験区	100.0	52.5	47.5	無	B	B	B
対照区	40.0	11.3	88.7	無	—	A	A
無処理区	100.0	100.0	—	—	—	—	—

※総合判定：単一試験ごとの実用性の評価（防除価による）

- 高い=A (>61) ある=B (41-60) 効果は認められるがその程度は低い=C (21-40)
 低い=D (20<) 判定不能=?

【画像資料】根こぶ着生程度・株生育比較



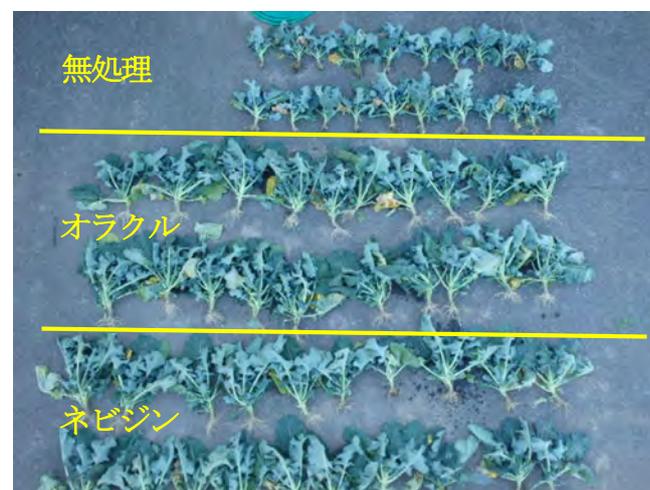
オラクル



ネビジン



無処理



各区草姿

10. 考察

無処理区は全調査株で著しい根こぶの着生が認められ、生育が抑制された。試験区においても全調査株において根こぶの着生があったが、無処理区に比べ防除価は上回った。対照区は発病株率、防除価ともに優れ、被害が軽微であった。しかし、根こぶの着生度合について試験区は対照区より程度が大きかったものの、株・花蕾の生育には差が見られなかった。

ブロッコリー新規殺虫剤効果確認試験 【新規】

1. 目的 ブロッコリーのチョウ目害虫に対する新規殺虫剤の効果を確認する

2. 試験機関 せたな町農業センター

3. 試験場所 試験予備圃場 No. 4

4. 供試作物(品種) ブロッコリー・おはよう

5. 試験規模 ①供試面積: 160 m² ②1区面積: 40 m² ③反復: 1

6. 圃場条件・耕種概要

土壌型	土性	定植日	肥料銘柄(施肥量)	栽植密度	1区穴数	備考
褐色森林	壤土	6月30日	UF550 84kg/10a	3,472株/10a	128穴	

7. 試験方法

区名	薬剤名	希釈倍数	水量 (ℓ/冊)	処理時期	処理方法	備考
試験区①	バリマークSC	400倍	0.5	定植前日	灌注	
試験区②	ジュロフロアブル	200倍	0.5	定植前日	灌注	
対象区	プレバソフロアブル5	100倍	0.5	定植前日	灌注	
無処理区	—	—	—	—	—	

8. 対象害虫の発生状況(甚、多、**中**、少)

9. 調査結果および効果判定

区分	食害度				薬害	総合判定		
	7月7日	7月14日	7月21日	7月27日		対対	対無	判定
試験区①	0.0	3.8	6.3	6.3	無	A	A	A
試験区②	0.0	0.0	5.0	8.8	無	A	A	A
対象区	0.0	13.8	21.3	23.8	無	—	B	B
無処理区	11.3	22.5	26.3	40.0	—	—	—	—

〈食害程度別基準〉
 食害程度 A B C D E
 食害葉面積率(%) 51以上 31~50 16~30 1~15 1未満

$$\text{食害度} = \frac{4A+3B+2C+D}{4 \times \text{調査株数}} \times 100 \quad A \sim D: \text{各食害程度の株数}$$

※効果判定 対対: 対象薬剤との効果比較 優=A 同等=B やや劣る=C 劣る=D 判定不能=?
 対無: 対無処理に比した薬剤の効果 高い=A 認められる=B やや低い=C 低い=D 判定不能=?
 判定: 単一試験ごとの実用性の評価 高い=A 認められる=B やや低い=C 低い=D 判定不能=?

【画像資料】 食害程度 7月27日：定植後4週間



ベリマークSC



ジュリボFL



プレバゾンFL5



無処理

10. 考察

試験区、対象区とも無処理区に対し効果が認められた。

試験区と対象区の比較では定植1週間後はともに食害がなかったが、2～4週間後では試験区が優った。

試験区①、試験区②については同等の効果が得られた。

11. 普及性

残効性を有し高い防除効果を発揮することから、普及性は高いと考えられる。

ブロッコリー育苗培土試験 【新規】

1. 課題 セル成型用育苗培土の効果確認
2. 目的 新規セル成型用育苗培土の育苗適性及び定植後の生育性について検討する
3. 設置場所 せたな町農業センター
4. 試供品種 ブロッコリー I：ピクセル
II：スピードドーム
5. 試験規模 供試面積：セルトレイ 8 枚 1 区面積：セルトレイ 2 枚 反復：1
6. 試験方法

試験区名	供試銘柄	育苗方法	は種日	定植日	肥料銘柄・施肥量
慣行区	スミイル N-170	セル成型育苗 (128穴)	I：5月15日 II：7月23日	I：6月8日 II：8月17日	UF550 84kg/10a N・P・K=12.6-12.6-8.4
試験区	スミイル N-150				
	スミイルロングアルファ スミイル SP				

7. 試験結果

I (5月15日播種)

(1) 生育調査 (6月8日)

試験区名	供試銘柄	葉長	葉数	草丈 (全長)	SPAD 値	成苗 率	苗の 抜取	根鉢 形成	根鉢 強度	生育 障害
		(cm)	(枚)	(cm)		(%)				
慣行区	スミイル N-170	8.2	2.9	11.2	46.0	97.3	(3)	(3)	(3)	なし
試験区	スミイル N-150	7.3	2.5	10.2	47.7	96.9	2	2	3	なし
	スミイルロングアルファ	8.0	2.9	10.9	46.5	97.7	3	2	3	なし
	スミイル SP	8.5	2.8	11.5	43.0	97.7	3	4	3	なし

苗の抜取 (難<易)・根鉢形成 (薄<密)・根鉢強度 (弱<強) については慣行区を3とする5段階指数

(2) 収穫調査

試験区名	供試銘柄	収穫日	生育日数	花蕾径
		(月日)	(日)	(cm)
慣行区	スミイル N-170	7月29日	51日	12.3
試験区	スミイル N-150	7月31日	53日	11.3
	スミイルロングアルファ	7月31日	53日	13.6
	スミイル SP	7月31日	53日	11.8

根鉢形成状況（6月8日）



スミソイル N-170



スミソイル N-150



スミソイルロングアルファ



スミソイル SP

II（7月23日播種）

(1) 生育調査（8月17日）

試験区名	供試銘柄	葉長	葉数	草丈 (全長)	SPAD 値	成苗 率	苗の 抜取	根鉢 形成	根鉢 強度	生育 障害
		(cm)	(枚)	(cm)		(%)				
慣行区	スミソイル N-170	6.0	3.0	9.2	46.5	91.0	(3)	(3)	(3)	なし
試験区	スミソイル N-150	6.0	3.0	9.8	45.8	91.0	2	2	2	なし
	スミソイルロングアルファ	6.6	3.0	10.5	45.7	90.2	3	3	3	なし
	スミソイル SP	6.1	3.0	9.6	41.8	92.2	4	4	4	なし

苗の抜取（難<易）・根鉢形成（薄<密）・根鉢強度（弱<強）については慣行区を3とする5段階指

(2) 収穫調査

試験区名	供試銘柄	収穫日	生育日数	花蕾径
		(月日)	(日)	(cm)
慣行区	スミソイル N-170	10月26日	70日	11.1
試験区	スミソイル N-150	11月2日	77日	11.1
	スミソイルロング ^α アルファ	10月26日	70日	11.3
	スミソイル SP	11月2日	77日	10.9

根鉢形成状況 (8月17日)



スミソイル N-170



スミソイル N-150



スミソイルロング^αアルファ



スミソイル SP

生育状況（10月22日：定植後66日）



写真列右から

スミソイルSP

スミソイルロングアルファ

スミソイルN-150

スミソイルN-170

8. 考察

スミソイルN-170：根張りが優れ、育苗時、定植後ともに生育が良好であった。

収穫到達日が一番早かった。

スミソイルN-150：育苗時の生育が劣り根張りも弱く、セルトレイからの苗の抜き取りに難があった。定植後についても生育が緩慢であり収穫到達日が遅かった。

スミソイルロングアルファ：根鉢の形成、育苗時・定植後の生育とも慣行のスミソイルN-170とほぼ同等であった。

スミソイルSP：育苗時の生育に優れ、根張りが一番強かったが、定植後の生育に劣り収穫到達日が遅かった。

長ネギ品種比較試験 【継続】

1. 試験方法

- 1) 実施場所： せたな町農業センター圃場
- 2) 供試品種数： 6品種

2. 生育経過

定植後は適度な降雨に恵まれ活着が順調であった。7月下旬から8月中旬にかけて多湿状態が続いたが、大きな病害は発生せず順調に生育した。9月に入ってから数品種にさび病が発生したが、虫害は生育期間を通じてほぼ見られなかった。

3. 調査結果

表1. 生育調査1

No.	品種名	播種期 (月日)	発芽		定植期 (月日)	定植時苗		
			期 (月日)	率(4/15) (%)		葉数 (枚)	葉鞘径 (mm)	同左比
標	北の匠	3/25	4/3	96.6	6/2	3.3	3.8	100
1	青年		4/3	96.6		3.5	4.5	118
2	森の奏で		4/1	95.5		2.9	3.5	92
3	夏扇パワー		4/1	97.7		3.3	5.2	137
4	夏扇4号		4/3	95.5		3.0	3.6	95
5	吉宗		4/2	96.6		3.0	3.7	97

概評：

発芽期は「森の奏で」、「夏扇パワー」が早く、「北の匠」、「青年」、「夏扇4号」が遅かった。
 発芽率はすべての品種において95%以上で良好であった。「吉宗」の発芽時に白化がわずかに発生した。
 定植時の葉鞘径は「青年」、「夏扇パワー」が太く、「森の奏で」、「夏扇4号」「吉宗」が細かった。

表2. 生育調査2

No.	品種名	最終培土 (月日)	収穫期 (月日)	培土後 日数 (日)	生育 全日数 (日)	収穫 本数率 (%)	障害発生程度(調整前)						収穫時草姿(調整前)			
							抽苔	葉先枯	葉枯病	べと病	さび病	萎凋病	草丈 (cm)	葉数 (枚)	葉鞘径 (mm)	一本重 (g)
標	北の匠	9/15	10/1	16	190	80	5	3	3	4	2	5	110	6.9	18.4	273
1	青年					93	5	2	4	5	4	5	116	7.2	20.9	332
2	森の奏で					75	5	3	3	4	3	5	92	7.1	21.4	298
3	夏扇パワー					90	5	3	4	5	5	5	107	6.5	20.7	309
4	夏扇4号					78	5	2	3	5	5	5	105	7.9	23.8	376
5	吉宗					80	5	4	3	5	5	5	98	8.3	21.7	346

概評：

収穫時に収穫本数率が高かったのは、「青年」、「夏扇パワー」であり、低かったのは、「森の奏で」、「夏扇4号」であった。
 障害発生が少なかったのは「夏扇パワー」、「吉宗」であり、「北の匠」にさび病の発生が多く見られた。
 収穫時の葉鞘径と一本重は試験品種全てが標準品種を上回り、特に「夏扇4号」が大きかった。

表 3. 収穫調査 1

No.	品種名	調整の 難易 5:易~1:難	葉身内 ノロ量 5:少~1:多	外観 (調整後)				生理障害 (調整後)			病害 (調整後)				草姿 (調整後)				
				えり締 5:堅~1:緩	軟白境 5:明瞭~1:不明	葉色		抽苔	分けつ (%)	曲がり	葉枯病	べと病	さび病	萎凋病	一本重 (g)	葉鞘径 (mm)	分岐長 (cm)	軟白長 (cm)	調整率 (%)
						濃	淡 (SPAD)												
標	北の匠	3	3	3	3	3	22.0	0	0	0	0	0	16	0	145	17.7	46	38	53
1	青年	3	3	4	3	4	24.2	0	0	3	3	0	0	0	167	18.3	45	38	50
2	森の奏で	4	2	5	5	4	25.2	0	7	0	3	0	0	0	168	19.1	38	34	56
3	夏扇パワー	4	2	4	4	2	20.9	0	0	3	0	0	0	0	164	17.8	44	37	53
4	夏扇4号	4	2	5	4	3	22.1	0	0	0	0	0	0	0	183	19.9	43	38	49
5	吉宗	5	2	4	5	3	23.4	0	0	0	0	0	0	0	187	18.8	40	36	54

概評：

ノロ量は「北の匠」、「青年」が少なかった。

えり締りが堅かったのは「森の奏で」、「夏扇4号」であった。

軟白境が明瞭なのは「森の奏で」、「吉宗」であった。

葉色は「青年」、「森の奏で」が濃く、「夏扇パワー」が淡かった。

調整後一本重が大きいのは「夏扇4号」、「吉宗」で、葉鞘径が太いのは「森の奏で」、「夏扇4号」、「吉宗」であった。

曲がり株と病害株は、その症状が軽微だったことから、収量調査においては規格内株とし計測した。

表 4. 収量調査 1

No.	品種名	規格別収量 (kg/10a)					計	同左比 (%)	規格外収量 (kg/10a)			合計 (kg/10a)
		2 L	L	M	S	生理障害 過小			病害	規格外計		
標	北の匠	231	2,264	1,721	207	4,423	100	34	0	34	4,457	
1	青年	187	2,923	2,774	72	5,956	135	0	0	0	5,956	
2	森の奏で	899	2,885	880	77	4,741	107	111	0	111	4,852	
3	夏扇パワー	0	3,538	1,942	77	5,557	126	125	0	125	5,682	
4	夏扇4号	240	4,533	678	0	5,451	123	0	0	0	5,451	
5	吉宗	495	4,139	1,024	96	5,754	130	0	0	0	5,754	

概評：

規格内収量が特に優れたのは「青年」、「吉宗」であった。

L規格以上の収量が多いのは「夏扇4号」、「吉宗」であった。

表 5. 収量調査 2

No.	品種名	規格別収量 (千本/10a)					同左比 (%)	規格外収量 (千本/10a)			総本数 (千本/10a)	規格内株率 (%)
		2 L	L	M	S	計		生理障害 過小	病害	規格外計		
標	北の匠	0.8	10.8	10.8	1.5	23.9	100	0.8	0.0	0.8	24.7	97
1	青年	0.8	11.5	15.4	0.8	28.5	119	0.0	0.0	0.0	28.5	100
2	森の奏で	3.1	12.3	5.4	0.8	21.6	90	1.5	0.0	1.5	23.1	94
3	夏扇パワー	0.0	14.6	10.8	0.8	26.2	110	1.5	0.0	1.5	27.7	95
4	夏扇4号	0.8	19.2	3.8	0.0	23.8	100	0.0	0.0	0.0	23.8	100
5	吉宗	1.5	16.9	5.4	0.8	24.6	103	0.0	0.0	0.0	24.6	100

概評：

規格内本数が多いのは「青年」、「夏扇パワー」であった。

L規格以上本数が多いのは「夏扇4号」、「吉宗」であった。

【品種毎評価】

標)「北の匠」：調査品目中一番収量が低く、さび病の発生が目立った。

- 1) 「青年」：収穫本数率が高く収量が一番多かった。外観品質、草姿も標準以上であった。
- 2) 「森の奏で」：収穫本数率が低く収量が少なかったが、外観品質に優れた。
- 3) 「夏扇パワー」：欠株が少なく収量性が高かった。病害の発生がほぼなかった。葉色が淡かった。
- 4) 「夏扇4号」：径太く一本重が大きかった。L率が高く揃いが良い。収量性が高かった。
- 5) 「吉宗」：一本重が大きく収量性が高かった。外観にも優れた。作業性に優れた。

【画像資料】

(調整前)



北の匠



青年



森の奏で



夏扇パワー



夏扇4号



吉宗

(調整後)



北の匠



青年



森の奏で



夏扇パワー



夏扇4号



吉宗

かぼちゃ省力栽培方法確認試験 【継続】

1. 試験目的 かぼちゃの直播栽培を検討する
2. 試験機関 檜山農業改良普及センター檜山北部支所
3. 試験場所 試験圃場 No.9
4. 試験方法

(1) 供試品種・区分

品種名	種子元	特性、早晩性
くり将軍	トキタ	早、着果45～50日
栗坊	サカタのタネ	500～600g、開花後40日
ダークホース	松島	1.8kg、開花後50日
白い九重栗	カネコ種苗	中型1.5～2kg、貯蔵性良
ほっこりうらら	タキイ種苗	えびすに準じた栽培、交配後45～50日
味平	みかど協和	早

- (2) 試験規模：ア 供試面積 261㎡（幅5.8m、長さ45m）
 イ 栽植密度 60cm×5.8m、ひと穴1株、黒マルチ

- (3) 耕種概要：は種月日 5月21日、うどんこ病防除（イウF）3回

基肥 BBNK20	成分量 (kg/10a)			
	窒素	リン酸	加里	苦土
40kg/10a	8.0	0.0	4.0	0.0
追肥 尿素				
2kg/10a	0.92			

- (4) 現土の土壌分析値

pH	熱抽N (mg/100mg)	P ₂ O ₅	交換性 (mg/100mg)			リン酸 吸収係数	腐植 (%)
			K ₂ O	MgO	CaO		
6.2	-	14.0	35.1	26.0	182.0	899	-

5. 結果の概要

- (1) 生育経過（表1）

は種後の気象は高温少雨であったが、出芽率は100%となり、その後の生育は良好だった。

- (2) 収量・品質（表2）

9月10日から収穫を行った結果1個平均1,000g以上の品種が多くなり、ひと株当たり1.3～3.5個と品種間差があった。

10a当たり収量は、「味平」が908.8kgと少なく、「ほっこりうらら」が1,836.0kgと多かった。「栗坊」は、小玉かぼちゃであるが1,452kgと平均的であった。

(3) 作業時間 (表3)

1人あたりの作業時間は、は種まで1時間26分/10aとなり、管理作業では6時間42分/10a、収穫・キュアリングまでは21時間42分/10aであった。

(4) 食味 (表4、図1)

食味調査は、点数制で実施した。「くり将軍」が甘みと舌触りが良く89点と高く、「栗坊」はべちゃべちゃ感が強く70点と低かった。

6. 結果の考察

畑作物の輪作体系に組み込めるかぼちやの省力栽培を検討するため、直播栽培によって栽培に係る作業や収量性を確認することができ、品種の特性を把握できた。

今後、多収で食味が良い品種、または話題性のある品種を導入検討する必要がある。

7. まとめ (普及性)

品種を選定し継続する。

8. 成果の具体的データ

表1 生育概要

品種名	は種日 (月日)	出芽割合 (%)
くり将軍	5月21日	100
栗坊		100
ダークホース		100
白い九重栗		100
ほっこりうらら		100
味平		100

表2 収量調査結果 (9月12日)

品種名	着果ひと株当		10a当
	個数(個)	平均重量(g)	収量(kg)
くり将軍	1.9	2,096	1,129
栗坊	7.7	659	1,453
ダークホース	1.8	1,993	1,013
白い九重栗	2.1	2,830	1,743
ほっこりうらら	3.5	1,825	1,836
味平	1.3	2,433	909

表3 作業時間

作業名	10a当 (分)	10a当合計 (分)	10a当合計(時間)
砕土	38.3	172.4	2:52
施肥	19.2		
整地	38.3		
マルチ張り	38.3		
は種	38.3		
作業人数 合計		2人	2:52
		1人あたり時間	1:26

作業名	10a当 (分)	10a当合計 (分)	10a当合計(時間)
防除 1回目	114.9	344.7	5:44
防除 2回目	114.9		
防除 3回目	114.9		
追肥	57.5	57.5	0:57
作業人数 合計		1人	6:42
		1人あたり時間	6:42

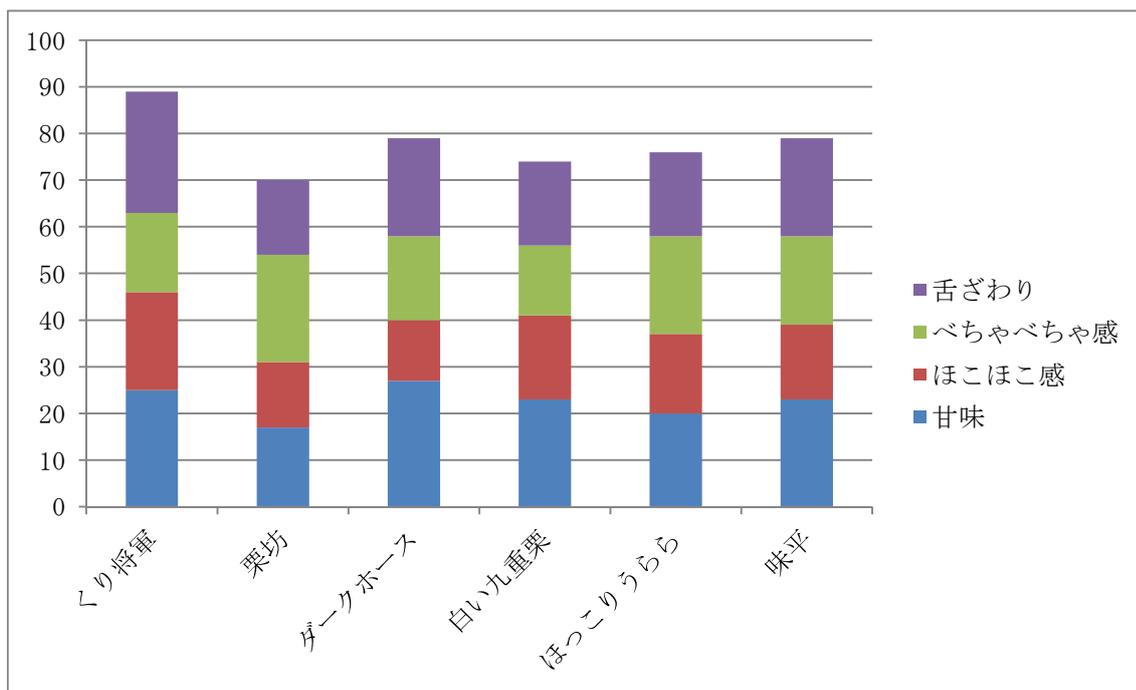
作業名	10a当 (分)	10a当合計 (分)	10a当合計(時間)
収穫	1378.8	2757.6	45:58
運び出し	1378.8		
マルチはがし	689.4	689.4	11:29
磨き	459.6	459.6	7:39
作業人数 合計		3人	65:06
		1人あたり時間	21:42

表4 食味 (12月7日調査)

品種	甘味	ほこほこ感	べちゃべちゃ感	舌ざわり	合計点数
くり将軍	25	21	17	26	89
栗坊	17	14	23	16	70
ダークホース	27	13	18	21	79
白い九重栗	23	18	15	18	74
ほっこりうらら	20	17	21	18	76
味平	23	16	19	21	79

※n=10。
 ※甘味、ほこほこ感、舌ざわりを○=3点、△=2点、×=1点とした。
 ※べちゃべちゃ感は○=1点、△=2点、×=3点とした。

図1



写真



くり将軍



栗坊



ダークホース



白い九重栗



ほっこりうらら



味平



加工前



加工後

なす品種比較試験 【新規】

1. 試験目的 直売施設向け消費者ニーズに合った導入品種を検討する
2. 試験機関 檜山農業改良普及センター檜山北部支所
3. 試験場所 試験圃場 No.7

4. 試験方法

(1) 供試品種・区分

品種名	採種場	特性、早晩性
くろわし	タキイ種苗	大卵、早生の米なす、焼き物や煮物に向く
千両二号	タキイ種苗	長卵～中長、調理の幅が広い
マー坊	サカタのタネ	細長、赤紫皮、長さ30cm、太さ2.5cmのへびなす
早生大丸	タキイ種苗	丸、肉質は締まり田楽や煮物に向く
ごちそう	サカタのタネ	長卵～中長の水なす、小ぶりで房成り、多汁で柔らかいサラダなす

- (2) 試験規模：ア 供試面積 261㎡（幅5.8m、長さ45m）
 イ 栽植密度 60cm×5.8m、ひと穴1株、黒マルチ

- (3) 耕種概要：は種月日 4月20日、定植月日 6月18日

基肥 BBNK20	成分量 (kg/10a)			
	窒素	リン酸	加里	苦土
75kg/10a	15.0	0.0	7.5	0.0

(4) 現土の土壌分析値

pH	熱抽N (mg/100mg)	P ₂ O ₅	交換性 (mg/100mg)			リン酸 吸収係数	腐植 (%)
			K ₂ O	MgO	CaO		
6.2	-	12.0	49.0	24.2	182.0	1,040	-

5. 結果の概要

(1) 生育経過 (表1)

定植後の気象は高温少雨であったが、生育は良好だった。

品種特性に合わせた収穫は7月23日から始まり、9月29日で終了した。

(2) 収量・品質 (表2)

着果数は、ひと株当たり18.4～46.0個と品種間差があった。

10a当たり収量は、「くろわし」が1,048kgと多く、「千両二号」が669kgと少なかった。

(3) 食味 (表3、図1)

食味調査は160点上限の点数制で実施した。「くろわし」が130点と高く、「マー坊」が110点と低かった。しかし、「マー坊」の形が話題性高いとの好評価もあった。

6. 結果の考察 (系統品種の評価)

露地栽培での品種比較展示により、品種の特性を把握できた。収量性は高くなったが、日焼けや風害による擦り傷がみられ、販売規格に適合するものは少ないと考える。

7. まとめ（普及性）

品種を選定し継続する。

8. 成果の具体的データ

表1 生育概要

品種名	収穫始 (月日)	収穫終 (月日)	収穫期間 (日間)
くろわし	8月3日	9月29日	16
千両二号	7月23日	9月29日	20
マー坊	7月27日	9月29日	19
早生大丸	7月23日	9月29日	19
ごちそう	8月4日	9月29日	16

表2 収量調査結果

品種名	着果ひと株当		10a当
	個数(個)	平均重量(g)	収量(kg)
くろわし	18.4	199	1,048
千両二号	26.1	89	669
マー坊	46.0	55	732
早生大丸	31.3	113	1,019
ごちそう	41.1	77	910

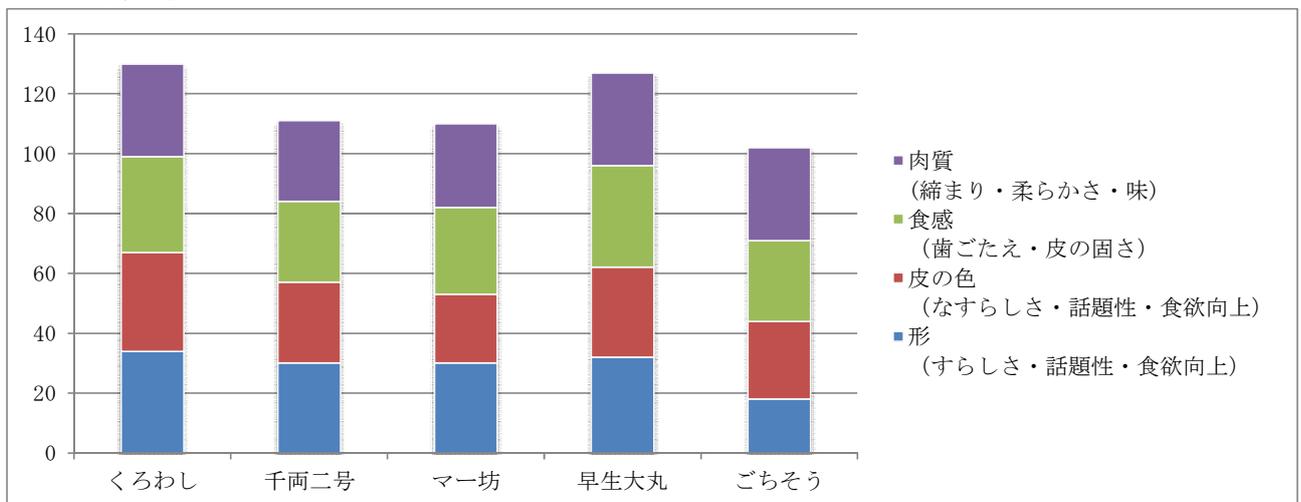
表3 食味調査（8月18日調査）

品種名	形 (すらしさ・話題性・食欲向上)	皮の色 (なすらしさ・話題性・食欲向上)	食感 (歯ごたえ・皮の固さ)	肉質 (締まり・柔らかさ・味)	合計点数
くろわし	34	33	32	31	130
千両二号	30	27	27	27	111
マー坊	30	23	29	28	110
早生大丸	32	30	34	31	127
ごちそう	18	26	27	31	102

※n=8。

※良い5点、普通3点、悪い1点として調査、集計した。

図1 食味調査グラフ



写真



定植直後



支柱たて、誘引後



くろわし



千両二号





マー坊



早生大丸



ごちそう



秋まき小麦における除草剤効果・薬害確認試験 【新規】

1. 試験目的 一年生雑草に対する除草効果、薬害を確認する
2. 試験機関 せたな町農業センター
3. 試験場所 試験圃場 No.21
4. 試験規模 供試面積 50m² 1区面積 5m² 反復 2
5. 供試品種 きたほなみ
6. 耕種概要

播種日	肥料銘柄	施肥量(kg/10a)			栽植密度	出芽期	備考
		N	P	K			
平成26年 9月25日	BB082 80kg/10a	8.0	14.4	9.6	10kg/10a	平成26年 10月1日	

7. 試験区分

区名	薬剤名	処理量	液量	処理時期	処理日
1	リベレーターフロアブル	70ml	100L/10a	播種後出芽前	9月26日
2	ガレス乳剤	200ml	100L/10a	播種後出芽前	9月26日
3	リベレーターフロアブル	70ml	100L/10a	ムキ2.5葉期	10月15日
4	ガレス乳剤	150ml	100L/10a	ムキ2.5葉期	10月15日
5	無処理	-	-	-	

8. 試験結果

(薬害程度・除草効果)

平成27年4月14日調査（出芽前処理⇒処理後200日、小麦2.5葉期処理⇒処理後181日）

処理時期	試験薬剤	反復	薬害程度 (症状)	除草効果			
				スズメカビウ	カツル	ハコバ	ホトケウ
小麦出芽前処理 (播種翌日)	リベレーターフロアブル 70ml	A	○(生育抑制)	100	100	100	100
		B	○(生育抑制)	100	100	98	100
		平均	○	100	100	99	100
	ガレス乳剤 200ml	A	○(生育抑制)	98	94	100	100
		B	○(生育抑制)	88	88	94	94
		平均	○	93	91	97	97
小麦2.5葉期処理 (播種後20日)	リベレーターフロアブル 70ml	A	△(生育抑制) [※]	92	96	100	100
		B	△(生育抑制) [※]	98	92	100	100
		平均	△	95	94	100	100
	ガレス乳剤 150ml	A	○(生育抑制)	80	96	100	100
		B	○(生育抑制)	92	94	100	100
		平均	○	86	95	100	100
無処理		無	0(中発生)	0(中発生)	0(中発生)	0(少発生)	

調査方法: 達観調査(0=効果なし~100=完全枯死)、○=薬害に実用上問題なし、△=検討の必要あり、×=実用上問題あり

※ヨトウムシの食害の影響含む

(収量調査)

平成27年7月24日調査

			1区	2区	3区	4区	5区
概要	は種月日	月日	2014/9/25				
	は種量	kg/10a	10kg/10a(255粒/10a)				
	畦間	cm	30cm				
収量調査	稈長	cm	80.4	77.4	79.7	78.5	82.4
	穂長	cm	9.6	9.3	8.8	9.5	8.9
	粗原子実重	kg/10a	707	720	603	619	565
	製品子実重	kg/10a	549	565	423	471	441
	歩留まり	%	77.7	78.5	70.1	76.1	78.1
	粗原千粒重	g	36.4	37.0	34.8	37.0	35.8
	製品千粒重	g	40.8	41.6	40.8	41.8	40.4
粒度割合	2.4mm上	%	77.6	78.4	70.2	76.1	78.1
	2.2mm上		15.5	15.1	19.8	16.1	16.1
	下		6.9	6.4	10	7.8	5.9

9. 考察

リベレーターフロアブル70mlの除草効果が高く、特にスズメノカタビラに対する効果はガレス乳剤に優った。また、小麦出芽前処理のカミツレに対しても安定した効果を示した。

小麦に対する安全性については、播種深度や根雪前のヨトウムシ食害による影響も考えられるが、リベレーターフロアブルがガレス乳剤に劣った。

収量は、小麦出芽前処理が小麦2.5葉期処理、無処理を上回り、ガレス乳剤がリベレーターフロアブル、無処理を上回った。

いずれの薬剤も除草効果は高かったが、リベレーターフロアブルについては安全性面より低葉量での検討が必要と考える。

春まき小麦における除草剤効果・薬害確認試験 【新規】

1. 試験目的 一年生雑草に対する除草効果、薬害を確認する
2. 試験機関 せたな町農業センター
3. 試験場所 試験圃場 No.21
4. 試験規模 供試面積 30m² 1区面積 3m² 反復 2
5. 供試品種 春よ恋
6. 耕種概要

播種日	肥料銘柄	施肥量			栽植密度	出芽期	備考
		N	P	K			
4月27日	BBNK20 40kg/10a	8.0	0.0	4.0	15kg/10a	5月4日	

7. 試験区分

区名	薬剤名	処理量	液量	処理時期	処理日
1	リベレーターフロアブル	70ml	100L/10a	播種後出芽前	4月30日
2	ガレス乳剤	200ml	100L/10a	播種後出芽前	4月30日
3	リベレーターフロアブル	70ml	100L/10a	ムギ3葉期	5月21日
4	ガレス乳剤	150ml	100L/10a	ムギ3葉期	5月21日
5	無処理	-	-	-	

8. 試験結果

(薬害程度・除草効果)

平成27年6月10日調査（出芽前処理⇒処理後41日、小麦3葉期処理⇒処理後20日）

処理時期	試験薬剤	反復	薬害程度 (症状)	除草効果				
				スズメカサウ	イネ科雑草	たすく	ハコ	苧類
小麦出芽前処理 (播種後3日)	リベレーターフロアブル 70ml	A	△(生育抑制)	88	97	95	75	80
		B	○(生育抑制)	86	100	100	100	100
		平均	○	87	98	98	87	90
	ガレス乳剤 200ml	A	○(生育抑制)	68	86	90	78	75
		B	○	70	80	100	90	94
		平均	○	69	83	95	84	85
小麦3葉期処理 (播種後24日)	リベレーターフロアブル 70ml	A	○(生育抑制、白斑跡あり)	90	90	100	86	90
		B	○(生育抑制、白斑跡あり)	80	90	86	80	100
		平均	○	85	90	93	83	95
	ガレス乳剤 150ml	A	○(白斑跡あり)	40	80	80	76	60
		B	○(白斑跡あり)	70	70	100	86	100
		平均	○	55	75	90	81	80
無処理			無	0(中発生)	0(少発生)	0(少発生)	0(中発生)	0(中発生)

調査方法: 経時的に達観調査を実施。(0=効果なし~100=完全枯死)、○=薬害に実用上問題なし、△=検討の必要あり、×=実用上問題あり)

(収量調査)

平成27年8月10日調査

		1区	2区	3区	4区	5区	
概要	は種月日	月日	4月27日				
	は種量	kg/10a	15kg/10a				
	畦間	cm	30cm				
収量調査	稈長	cm	92.2	99.2	95.3	100.2	99.3
	穂長	cm	7.9	7.8	8	7.9	8.6
粗原子実重		kg/10a	232	265	270	330	285
製品子実重		kg/10a	192	229	226	269	239
歩留まり		%	82.8	86.4	83.7	81.5	83.9
粗原千粒重		g	38.4	39.4	38.8	38.6	38.6
製品千粒重		g	41.6	42.6	42.2	42.6	41.8
粒度割合	2.4mm上	%	82.8	86.4	83.5	81.5	83.8
	2.2mm上		10.9	8.1	10.4	11.8	10.6
	下		6.3	5.6	6.1	6.7	5.6

9. 考察

リベレーターフロアブル70m1の除草効果は、発生が認められたすべての草種に対してガレース乳剤に優った。

薬害は出芽前処理でリベレーターフロアブルに生育抑制の症状が強く、安全性はガレース乳剤に劣った。小麦3葉期処理ではいずれの薬剤にも下葉の白斑症状が確認された。

収量は、ガレース乳剤>無処理>リベレーターフロアブルの順となった。

春まき小麦緑肥同伴栽培試験 【継続】

1. 試験目的 春まき小麦の間作にダイズシストセンチュウ対抗植物を栽培し、春まき小麦への影響を探る

2. 試験機関 檜山農業改良普及センター檜山北部支所

3. 試験場所 試験圃場 No.21

4. 試験方法

(1) 供試品種 春まき小麦「春よ恋」、対抗植物「クリムソクローバ」

(2) 試験区分

区分	
試験区①	春まき小麦 作条施肥は種＋対抗植物 全層は種
試験区②	春まき小麦 作条は種＋対抗植物 全層施肥は種
慣行区①	春まき小麦単播 作条施肥は種
慣行区②	対抗植物単播 全層施肥は種

(3) 試験規模

ア 供試面積：98.6㎡ イ 1区面積：20.4㎡ ウ 区制：区内反復

(4) 耕種概要

土壌型	土性	排水良否	前作物	は種月日	畦幅 (cm)	堆肥施用量 (t/10a)	病虫害防除
洪積土	壤土	良	小麦	4月27日	30	—	赤かび病防除 3回

区分	肥料名	施用量 (kg/10a)	成分換算 (kg/10a)		は種量 (kg/10a)	
			窒素	加里	春まき小麦	クリムソクローバ
試験区①	BBNK20	40	8.0	4.0	15	3
試験区②	BBNK20	40	8.0	4.0	15	3
慣行区①	BBNK20	40	8.0	4.0	15	—
慣行区②	BBNK20	20	4.0	2.0	—	3

(5) 原土の土壌分析

pH	熱抽N (mg/100mg)	P ₂ O ₅	交換性 (mg/100mg)			リン酸 吸収係数	腐植 (%)
			K ₂ O	MgO	CaO		
5.5	—	9.0	14.1	12.2	117	716	—

※近隣の試験ほ場データ

5. 結果の概要

(1) 生育経過 (表1、表2)

は種時は土壌水分もあり、出芽は良好となった。5月からの少雨により生育は順調に経過した。

春まき小麦の稈長は試験区①と②ともに慣行区①より低くなり、対抗植物のクリムソクローバの草丈は試験区の稈長より低くなった。また、試験区②のクリムソクローバの草丈は、単播の慣行区②よりも低くなった。

㎡あたり穂数は慣行区比で試験区①が58.8%、試験区②が82.4%と少なくなった。

病虫害の発生と倒伏はなかった。

(2) 収量・品質 (表3)

慣行区の春まき小麦単播と比較し、製品収量では試験区①が87.0%、試験区②は103.9%となった。慣行区と比較すると、試験区の製品千粒重と歩留まりが高く、たんぱく質は同等であった。

6. 結果の考察

春まき小麦とクリムソクローバのは種が同時でも、生育および収量性には影響がない。

は種作業は、春まき小麦を作条は種後、クリムソクローバと肥料を混和して散播後鎮圧を行い、除草剤の散布を実施しない工程が望ましいと考える。

クリムソクローバを同伴栽培した場合の草丈は、春まき小麦の稈長と穂長を加えた草丈よりも低くなるが、収穫時にはできる限り穂のみを収穫するよう心がける必要がある。

ダイズシストセンチュウの発生していないほ場での試験であるが、密度低下の効果はある。

7. まとめ (普及性)

ダイズシストセンチュウ密度の高いほ場、かつ休閒緑肥として対抗植物の導入が難しい場合には、大豆の前作物として、春まき小麦とクリムソクローバの同伴栽培が可能である。

ただし、除草剤を使用できないため、雑草発生の少ないほ場を選定する。

8. 成果の具体的データ

表1 生育概要

区分	出芽期 (月日)	出芽 良否	止葉期 (月日)	出穂期 (月日)	開花期 (月日)	成熟期 (月日)
試験区①	5月4日	良	6月15日	6月24日	—	8月4日
試験区②	5月4日		6月15日	6月24日	—	8月3日
慣行区①	5月4日		6月15日	6月24日	—	8月3日
慣行区②	5月4日		—	—	6月26日	—

区分	小麦の成熟期生育量				クリムソクローバ 生育量
	稈長(cm)	穂長(cm)	穂数(本/m ²)	慣行区比(%)	草丈(cm)
試験区①	92.6	8.6	266.7	58.8	79.2
試験区②	96.8	7.7	373.3	82.4	69.9
慣行区①	97.2	8.1	453.3	(100)	—
慣行区②	—	—	—	—	73.1

表2 病虫害発生程度

区分	赤さび病	うどんこ病	赤かび病	倒伏程度
試験区①	無	無	無	無
試験区②	無	無	無	無
慣行区①	無	無	無	無
慣行区②	無	無	無	無

表3 収量構成要素 (8月10日調査)

区分	小麦子実重(kg/10a)		慣行区比 (%)	歩留 (%)	千粒重 (g)	原粒蛋白 (%)	クリムソクローバ収量 (kg/10a)	
	粗原	製品					生	乾物
試験区①	238	201	87.0	84.3	43.2	12.0	—	—
試験区②	282	240	103.9	85.2	43.4	12.1	—	—
慣行区①	277	231	(100)	83.7	42.2	12.0	—	—
慣行区②	—	—	—	—	—	—	1,587	311

注) 子実重製品、千粒重は2.4mmふるいを使用。水分12.5%に補正済み。

大豆に対する密植効果確認試験 【新規】

1. 試験目的 現地主要品種の密植効果を確認する
2. 試験機関 檜山農業改良普及センター檜山北部支所
3. 試験場所 試験圃場 No.19

4. 試験方法

(1) 供試品種 「トヨムスメ」 「ゆめのつる」 「ツルムスメ」 「タマフクラ」

(2) 試験区分 「密植区」 「慣行区」

	施肥量 (kg/10a)					堆肥施用量 (t/10a)	病害虫 防除回数
	肥料銘柄	窒素	リン酸	加里	苦土		
密植区、慣行区	S325 60kg	1.8	13.2	9.0	4.2	-	-

(3) 試験規模

ア 供試面積：84.48m² イ 1区面積：10.56m² ウ 区制：反復なし

(4) 耕種概要

土壌型	土性	排水 良否	前作物	は種 月日	栽植密度			収穫 月日
					うね幅	株間	株数 株/10a	
洪積土	壤土	並	緑肥	5/26	66cm	17cm	8,913	10/16
						8.5cm	17,825	

5. 結果の概要

(1) 生育経過

は種後、適度な降雨があったため、出芽は良好であった。は種後、6月下旬から7月上旬まで気温が平年より低めに推移したが、生育への影響は少なかった。その後天候は回復し、開花期は平年並であった。8月6半旬以降9月3半旬までと10月1半旬以降の平均気温が平年より低めに推移したため、登熟が進んだ。

(2) 収量・品質

「トヨムスメ」

慣行区と比較して、開花期は同日で、成熟期も同日であった。倒伏は発生しなかった。莢数が116%であったが、収量は96%とほぼ同等だった。

「ゆめのつる」

慣行区と比較して、開花期は同日で、成熟期も同日であった。倒伏は発生しなかった。莢数が143%であり、収量も117%と優った。

「ツルムスメ」

慣行区と比較して、開花期は同日で、成熟期も同日であった。倒伏は発生しなかった。莢数が131%であり、収量も140%と優った。

「タマフクラ」

慣行区と比較して、開花期は同日で、成熟期も同日であった。倒伏は発生しなかった。莢数が147%であり、収量も133%と優った。

6. 結果の考察

成熟期、耐倒伏性は同等であった。

品種によって、密植効果に差が見られた。

莢数増加：トヨムスメ、ゆめのつる、ツルムスメ、タマフクラ

製品子実重増加：ゆめのつる、ツルムスメ、タマフクラ

歩留まり増加：ツルムスメ

百粒重増加：トヨムスメ、ツルムスメ

7. まとめ（普及性）

単年度の試験結果であるため、継続した調査が必要である。

8. 成果の具体的データ

「トヨムスメ」

試験区分	出芽期 (月日)	出芽 の 良否	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒伏 程度	わい 化病 (%)	草丈 (cm)	莢数 (莢/m ²)	慣行区比 (%)
密植区	6/1	良	7/21	9/28	無	0	56.7	640.0	116
慣行区	6/1	良	7/21	9/28	無	0	59.4	552.6	100

試験区分	最下 着莢位置 (cm)	子実重 (kg/10a) (粗原)	子実重 (kg/10a) (製品)	慣行区 比 (%)	歩留 (%)	一莢内 粒数 (粒)	百粒重 (g)
密植区	9.9	368	290	96	78.9	1.61	36.8
慣行区	9.2	381	313	100	82.3	2.01	35.7

注) 子実重(粗原)は、唐箕選後の測定値(篩なし)子実重(製品)、百粒重は、7.9mmふるい選後の測定値。水分15.0%に補正済み。

「ゆめのつる」

試験区分	出芽期 (月日)	出芽 の 良否	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒伏 程度	わい 化病 (%)	草丈 (cm)	莢数 (莢/m ²)	慣行区比 (%)
密植区	6/1	良	7/25	10/16	無	0	54.2	648.8	143
慣行区	6/1	良	7/25	10/16	無	0	60.6	452.8	100

試験区分	最下 着莢位置 (cm)	子実重 (kg/10a) (粗原)	子実重 (kg/10a) (製品)	慣行区 比 (%)	歩留 (%)	一莢内 粒数 (粒)	百粒重 (g)
密植区	10.8	424	362	117	85.4	1.44	46.3
慣行区	14.2	347	310	100	89.4	1.67	47.1

注) 子実重(粗原)は、唐箕選後の測定値(篩なし)子実重(製品)、百粒重は、8.5mmふるい選後の測定値。水分15.0%に補正済み。

「ツルムスメ」

試験区分	出芽期 (月日)	出芽 の 良否	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒伏 程度	わい 化病 (%)	草丈 (cm)	莢数 (莢/m ²)	慣行区比 (%)
密植区	6/1	良	7/26	9/26	無	0	50.8	563.3	131
慣行区	6/1	良	7/26	9/26	無	0	61.2	431.4	100

試験区分	最下 着莢位置 (cm)	子実重 (kg/10a) (粗原)	子実重 (kg/10a) (製品)	慣行区 比(%)	歩留 (%)	一莢内 粒数 (粒)	百粒重 (g)
密植区	13.6	363	285	140	78.5	1.63	44.5
慣行区	14.4	340	204	100	60.1	1.74	41.9

注) 子実重(粗原)は、唐箕選後の測定値(篩なし)子実重(製品)、百粒重は、8.5mmふるい選後の測定値。水分15.0%に補正済み。

「タマフクラ」

試験区分	出芽期 (月日)	出芽 の 良否	開花期 (月日)	成熟期 (月日)	倒伏 程度	わい 化病 (%)	草丈 (cm)	莢数 (莢/m ²)	慣行区比 (%)
密植区	6/1	良	7/25	10/11	無	0	70.6	520.5	147
慣行区	6/1	良	7/25	10/11	無	0	71.8	354.7	100

試験区分	最下 着莢位置 (cm)	子実重 (kg/10a) (粗原)	子実重 (kg/10a) (製品)	慣行区 比(%)	歩留 (%)	一莢内 粒数 (粒)	百粒重 (g)
密植区	14.2	484	462	133	94.8	1.42	67.2
慣行区	13.6	367	347	100	95.6	1.58	67.1

注) 子実重(粗原)は、唐箕選後の測定値(篩なし)子実重(製品)、百粒重は、9.0mmふるい選の測定値。水分15.0%に補正済み。

常設圃場および実証圃の設置

【緑肥・圃場景観】

1. 緑肥ライ麦 No. 6
 - ・土づくり、圃場景観
2. 緑肥ソルゴー No. 8
 - ・土づくり
3. ヒマワリ No. 10
 - ・土づくり、圃場景観
4. ハゼリソウ No. 23
 - ・圃場景観（アンジェリア）

【露地野菜】

5. マイナー品目、西洋野菜等 No. 7
 - ・直売向け品目、品種の展示栽培、イベント販売利用
6. 馬鈴薯 No. 20
 - ・品種展示栽培、親子いも掘り体験
7. 無農薬・無化学肥料栽培 予備-2
 - ・カボチャ栽培展示、リビングマルチ効果確認

【畑作】

8. 金時豆 No. 17
 - ・品種の展示栽培、イベント販売利用
9. 大豆 No. 18
 - ・新品種、系統の展示栽培
10. 連作、輪作試験圃場（平成24年度～継続）No. 2～5
 - ・大豆、小麦、ソバ、馬鈴薯の連作および輪作試験圃場の設置

【果樹】

11. ブルーベリー 小果樹園
 - ・小果樹ブルーベリーの栽培
12. ブドウ ハウス③
 - ・4品種の栽培

平成 27 年度 せたな町農業センター試験成績書

平成 28 年 3 月

せたな町農業センター

北海道久遠郡せたな町北檜山区二俣 55-1

〒049-4754 TEL (0137)85-1276

FAX(0137)85-1277

ホームページ <http://www.town.setana.lg.jp/>
